

信仰と社会実践は結合しなげなければならない

——ベトナム仏教者との対話から——

昨年（一九七二年）七月下旬から八月、ベトナム民主共和国宗教統一代表団は、『インドシナの平和と正義のための宗教者世界集会』に出席するため訪日した。集会後、全国各地をまわり、各宗の宗教者、各層の人々と精力的に対話を行なった。そして、代表団はスリランカのビブラサーラ師と共に八月十一日日蓮宗務院を訪れた。宗務院では、「歓迎ベトナム・スリランカ仏教代表」の立看板をかかげ、全職員が玄関ロビーに並んで、拍手して一行をむかえた。そして、三井宣雄総務部長が、宗務院を代表して歓迎のあいさつを述べ、代表団は歓迎にたいする感謝と友好の促進をのべた。スリランカのビブラサーラ師はさる四月の『アジア仏教徒平和会議』に渡部公允総長が親書を送ってくれたことに感謝の言葉をのべた。ついで一行は、池上本門寺を訪れ、金子日威管長をはじめ山内役職員と懇談し、同じ仏教徒としての親しい交流を行なった。このあと、代表団のうち仏教徒代表の方々は、休憩時間をさいて私たち現代宗教研究所のメンバーとの懇談の機会をつくってくれ

た。以下の話しあいは、朗峰会館で行われた懇談のもようである。代表団は、団長フアム・テー・ロン長老（統一仏教会副会長）、副団長フアム・クアン・フォク神父（愛国平和カトリック全国委員会常任委員）を中心に五名で構成されているものである。このうち、当日懇談会に出席していたのは、秘書長フアム・バン・ヒュー氏（統一仏教会常任委員）、ブイ・フー・チ氏（統一仏教会国際部主任）、グエン・バ・ゴク氏（仏教徒・英語通訳）の三氏である。また通訳として宮内寛氏が出席した。現宗研側は、中濃教篤所長、近江幸正顧問が同席し、石川康明研究部主任、内山堯邦調査部主任、遠藤教温庶務部主任、外岡信昭、宮川公博各研究員が出席した。本誌では、懇談会で収録した内容をそのまま掲載することにした。ベトナム戦争は「和平協定」が締結されても依然終わってはならず、この戦争の示すものに対していろいろな見方があるが、ベトナム仏教徒のなまの声を掲載することによって、民族の主権、統一、平和をめざすベトナム仏教徒の思想と実践の一端を

知るための参考に供したいと考える。なお、ベトナムの宗教者の活動をまとめたものとして、最近『ベトナム宗教者』（こずえ社発行）が世に出された。詳細を知りたい方は本書の一読をすすめたい。また、代表団が宗務院を訪問した折、現宗研の一室にも足を運んでいただいた。現宗研では、一行に歓迎と感謝の意を表し、夜光時計を贈呈した。掲載したサインは、懇談会のもの書いていただいたものである。

（文責・石川康明しるす）

PHAM VAN HIEU Hieu
BUI-HUU-TRU Tru
NGUYEN BA NGOC Ngoc
Tokyo, ngày 11 tháng 8 năm 1972
Đoàn đại biểu tôn giáo quốc
Việt-Nam đến chúc mừng

民衆のためにこの身を役だてる

中濃 ただ今から、私も現代宗教研究所のメンバーとざっくばらんに話していただければ幸いです。とくに、今日は若い人たちと話をさせていただきたいと思います。

石川 今日、私たちのために時間をさいていただき、ありがとうございます。「インドシナの平和と正義のための宗教者世界集会」（昨年七月三〇、三一、八月一日東京で開催された。ベトナム、アメリカ、ソ連、モンゴル、スリランカ、インド、フランスなど十三カ国、四国際団体、五七名の宗教代表と四〇〇名の日本代表が参加した）が、ベトナムの宗教者代表の皆さんの尽力で、成功をえましたことに感謝します。

まず初めに、研究所の紹介をさせていただきます。この研究所は、日蓮宗宗務院の最高責任者である宗務総長の直属機関として、九年前（昭和三十九年）に設立されました。現代宗教研究所、という名前の通り、現代社会と現代人の中に生きる仏教の確立をめざして研究活動を行うのが、その目的です。そこで、現代における宗教の実態や宗教意識の調査をしたり、現代に生きる教義や宗教の歴史などを研究してきています。けれども、仏教をたんに頭の中だけで考えるのではなく、現実といえますか、現代のさまざまな具体的状況と関連させながら、考

えていく、研究をする、そうした姿勢でやっています。

したがって、いろいろな社会的な問題、公害とか信教の自由を守るとか、平和の問題とかを考えながら、研究をかさねています。今日は、ベトナムの仏教をはじめ宗教の現状や平和と正義のために活動している仏教者のことについてお聞きし、私たちも勉強したい、そう思っております。

ヒュー氏　まずはじめに、所長さんはじめ皆さんが、このように親密な話合いの機会をつくって下さったことに感謝します。皆さんがたが、私たちベトナム人民の問題を日本の中の闘いでもちだされていることに関心をもっています。とくに、私は一つの問題について、非常に関心をもきました。それは、あなた方が、宗教の研究をすると同時に、これらの問題と社会のさまざまな問題とを結合して研究していることです。この活動のしかたは、とりもなおさず仏の教えるところですよ。つまり、社会の中にとけこんで、その福祉のために活動することであります。

私たちベトナムの仏教徒は、仏の教えの基本、つまり民衆のために、この身を役立てることを考えています。私たち仏教徒は、まず何よりも、民衆の利益になるかどうか、を基本として考えています。私たち仏教徒、僧侶も信徒もすべて祖国の利益のためにがんばっているわけ

です。

内山　僧侶の日常的な活動は、どうなされていますか。仏教界といった組織の活動や信徒の活動はどういうかたちでなされているか、まずお聞きしたいのですが。

四つの宗教

ヒュー氏　それでは、あなた方が出された問題について、答えたと思います。まず、ベトナムの宗教界、仏教界のことについてのべます。私たちは、南ベトナムの状況については、はっきりつかんでおりません。ご存知の通り、私たちの国はまだ統一されていません。だから、私たち自身、南部のことについて知る機会をもたないのです。そこで、ベトナム北部、つまりベトナム民主共和国の宗教や仏教徒の状況についてお話しいたします。

北ベトナムには、いくつかの宗教団体がありますが、主として、四つの宗教があります。それは、仏教、カトリック、プロテスタント、それにカオダイ教です。この四つの宗教団体は、つねに会って意見を交換しあっています。さらに、いろいろな愛国運動のための協定を結んでいます。私たち仏教徒も、もちろん深くは知りませんが、そういうわけである程度、他宗教のことも知っているわけです。

北部には、一〇〇万以上のカトリック教徒がいます。

以前には、帝国主義者がカトリックと仏教を、また人民とをきり離そうとし、またカトリックを利用して、わが国を侵略し、わが人民を支配しようとした。

しかし、一九四五年八月、すなわちベトナム革命が成功したのち、ベトナム民主共和国が成立し、宗教者を利用し、侵略したかれらは、追いはらわれ、げんざい独立を達成するにいたったのです。げんざいでは、この四つの宗教者と人民とは団結しています。数万のカトリックの青年が、抗議に参加しており、多くのカトリックの家庭が、闘いに参加する家庭の模範となっています。多くの信者が、人民軍隊のりっぱな戦士になっております。そして、いろいろな職業、農業でも工業や手工業でも、称さんをうけている人が、一〇人以上もいます。カトリックには、三つの班があつて、英雄的な民兵隊といわれています。多くの神父が、人民の側にたち、カトリック教徒を励まし、抗米救国のために闘っております。ある神父たちは、「ベトナム愛国平和カトリック全国連絡委員会」に参加しています。この委員会は、積極的にカトリック教徒を励まし、抗米救国に立ち上らせております。

つぎに、プロテスタントについてお話いたします。プロテスタントの人たちも、他の人民と同じく抗米救国

に参加しています。プロテスタントの家庭の多くが、三人、四人と青年を戦場に送り出しています。神父も社会的な活動に参加しています。信徒はみなプロテスタントの組織、教会にくわつており、この組織は、神の教えをたつとび、祖国を守るためのものです。そして、やはりプロテスタントの信徒を励まし、抗米救国に立ちあがらせています。

つぎは、カオダイ教についてのべます。カオダイ教はベトナムだけにある宗教ですが、北ベトナムには少なく南ベトナムの方が多くいます。フランスが侵略したとき、この宗教の発展をおそれて禁止したことがあることから、この宗教の人々はアメリカとの闘いで、積極的に闘っています。北ベトナムでは、数の上でこそ少ないのですが、その戦闘精神は、他の宗教に劣るものではありません。カオダイ教も、やはり団体をつくっており、「カオダイ教連盟」といいます。これも、教えをたつとび、国を救うことを説いています。

仏道と社会活動と結合する

それでは、仏教についてのべます。仏教は、他の宗教に比べて、伝えられた年代も古く、もっとも古くから、わが民族の歴史と結びついてきております。その愛国的

伝統も、古くからあります。わが国の革命が成功するまえから、その活動に多くの仏教徒が参加してきました。私たちは、「救国仏教会」を組織しました。そして、ほとんどの仏教徒が抗仏に参加しました。いま仏教徒は、他の人々に勝るとも劣らない活動をしています。僧侶はこぞって抗米救国に参加しており、仏のつとめを果しながら、信徒と話しあい、国を救う活動をしています。若い僧侶のなかには、政府が人民軍隊に入る義務を課していないにもかかわらず、一時的に衣をぬいで、人民軍隊に参加しています。かれらは、人民軍隊の中でも、高い地位をえています。年とった僧侶は、信者を励まし、抗米救国に参加させる活動のほかに、ホー・チ・ミン主席の提唱した植林運動に積極的にくわっています。また節約運動をして、節約したお金を寄付して、抗米救国に役立てようとしております。また、軍人の家庭、烈士の家、負傷者の家に行つて、世話をしたり、励ましたりもしています。アメリカと、じっさいに闘っている、その戦場に、年とった僧侶がツエをついて行つて、兵士を励ましたりしています。さらに、兵士が川を渡るとき、年とった尼僧が、爆撃をおそれず、舟をだして渡らせたりますなど、豊富な活動はいくつもあつて、短い時間でもあげられないほどもです。

ここで、ひとつ大事なことは、僧侶が、仏の教えとこ

れらの社会的活動とを結合してやっていることです。とくに仏の教えを未信徒に説くと同時に、愛国運動の道も説いていることです。これは、仏教だけでなく他の宗教でも同じです。アメリカにうち勝つことが、とりもなおさず仏の道にねざす活動だ、ということを知っているからです。

いま、一つの例をあげましょう。ある神父が一人の自分の信徒が戦闘で犠牲になったとき、この神父は人々を集めて、りっぱに追悼の礼拝と祈りをして、戦闘の中で犠牲となった信徒の死をいたむと同時に、その人の業績をほめたたえました。「祖国のためにつくしたからであり、神の教えをまっとうしたのだ」と。そしてその信徒は、キリスト教徒の中でも、立派に称讃されるようになったのです。これは、たんにその人の業績をたたえるだけではなく、教会の中でも認められたことでもありません。これは、他の宗教団体でも同じです。仏の教えを守る闘いと祖国を守ることとは、固く結合していることを示しています。また、宗教者の生活と社会的生活とが、固く結合しているということですが、人民の生活に敵対するものは、神の道、仏の道にも敵対するものです。このうえに立つて、仏教徒は仏教のことをよく知り、自分の信ずる道を強く推進しています。だから、抗米救国の闘いは一人ひとりの任務としてなされているのです。

しかし、はじめのうちは、このことをはっきり理解できませんでした。しかし、人民の運動、宗教者の運動を通じて、次第に理解されはじめ、進歩的な、また愛国的な宗教者によって、だんだん明らかにされました。人民の愛国運動を強力に発展させた功績の一つは、南ベトナム仏教徒の闘いでした。もう一つは、ベトナム民主共和国の正しい宗教政策と祖国戦線の宗教政策およびすべての宗教者の団結の賜物であります。すべての宗教者が、団結して支援しあう中にあるのです。それらは、すべての人民と、また人民と宗教者の団結と祖国の事業の発展に寄与しました。四つの宗教団体が、愛国運動の決議をして、協定を結んでいるのは、おたがいに愛国運動をすすめるために、援助しあい、経験を交流しあい、宗教と社会的運動の経験を交流しあうところにあります。しかも、宗教団体の組織や信仰の自由は、もちろん保障されています。げんざい行われているアメリカの罪悪や宗教者へのいろいろな策動は、私たちにとても教訓となりました。はじめのうちは、アメリカが私たちの敵であることを理解できなかったのが、やがて少数の人がアメリカの残忍な行動を理解しはじめ、げんざいではすべてがアメリカが敵であることを、はっきり知っています。

正義を守る

于氏 今、世界の平和をめざしている活動家や民主的な活動を行なっている皆さんは、よく次のような問いを提起します。

それは、「人口も少なく、土地も広くない民族が、なぜ、このようにねばり強く、長いあいだ闘いぬいていられるのだろうか」ということであります。

非常に強力な大国であるアメリカが、自らの経済的、軍事的な力を集中させて、わが国を攻撃しているにもかかわらず、かれらは敗けているのです。

その理由として、まず私が最初に申し上げたいことは、私たちの闘いが、正義にねざしているからなのです。

私たちの民族は、昔から平和を愛してきた民族です。私たちの民族は、「一寸の土地」たりとも、アメリカを侵略したことはありません。また、「一つの石」でさえも、かれらの土地に投げつけたことはありません。私たちは、ただ、独立と自由を要求しているだけなのです。

そして、平和と友好をもって、各国の人たちとつきあっていきたい、ということだけなのです。それにもかかわらず、アメリカは、戦艦、飛行機、爆弾など、いろいろな軍事力をもって、わが国を侵略しているのです。

私たちは、国を愛し、人を愛し、そして国を独立させ

るといふ希望をもっているにすぎません。敵が、人民を殺し、国土を破壊するのを見れば見るほど、私たちは怒りをもたざるをえないわけです。

私たちが、仏の道を学び、神の教えを生かそうとするならば、人民を殺し、国土を破壊している敵と対決せざるをえませんでした。それは、他でもなく、国を救うためだからです。

このことが、私たちを広範に団結させ、大きな統一戦線にまとめた力です。それが、私たちを団結させただけでなく、平和を求める世界の人民を団結させた力でもあります。そして、正義を守るために闘っているのであります。アメリカが、ふみにじっている人類の尊厳を守るために、私たちはいま闘っていると考えています。またアジアの平和、世界の平和を守るために闘っていると考えているのです。もし、アメリカが、わが民族を殺し、わが国を支配することがあれば、そのことはとりも直さず、世界の諸国民にとっても大きな危険となるのだと思います。もし、アメリカがわが国を支配することになれば、かれらの暴力が、正義にうち勝った、ということになってしまいます。

このように、私たちが闘っているのは、世界の人民がもっている理想にねざしているからなのです。また、だからこそ、私たちは闘うことができるのです。だからこ

そ、私たちは最後の勝利まで、ねばり強く闘うことができるのです。

わが国の人民、仏教徒の闘いに、世界の人民、仏教徒は、大きな支援をしてくれています。私たちの勝利は、とりも直さず、世界の宗教者、世界の人民にとつての勝利でもあります。この中には、もちろん日本の宗教者、人民の支援もふくまれています。そして、最近ベトナム人民を支援する世界の人民—その中に世界の宗教者の戦線もあります—の力は、日々に大きく、強くなっています。ニクソン政権は、ずるがしこく、いろいろな策動をやっていますが、しかし、世界の人民、宗教者はその策動を見破っています。これらの世界の人々は、アメリカに反対し、私たちを支援する活動を大きく発展させています。これらの支援の一つ一つが、勝利への展望をきり開くものになっているのです。だから、かれらがいかに狂暴で、残虐なことをやっても、やればやるほど、私たちの団結をますます強固なものにさせているのです。私たちののおくり出している前線の背後には、私たちはばかりではなく、数百万、数千万の支援があるわけです。私たちの闘いと全世界の人々の支援とが結合してこそ、まさに無敵ということができましよう。ホー・チ・ミン主席は「私たちは最後まで闘い、最後には敵を敗かすだろう」といいましたが、私たちの勝利の中には、世界人民

の支援がふくまれているのです。

今日のような、親密な話し合いができることを私は心から喜んでいます。ぜひ、あなた方を通じて、日本の仏教徒の青年の皆さんに、同じベトナムの仏教徒の青年が、「皆さんの支援に感謝している」といつていることをお伝え下さるようお願いいたします。私たちは、つねに自分たちのことだけでなく、私たちを支援してくれているすべての世界の人々に感謝しております。私たちは、世界のある所の人々が、苦しんでいれば、その人のために何かしてやりたくくなります。私たちは、私たちのために闘っている、すべての地域、すべての人々が勝利することを、自分のこととして喜んでいきます。そして、あなた方が、いろいろな闘いの中で、勝利し、前進していることを喜んでいきます。私たちは、日本の宗教者や人民が日本の独立、平和、繁栄のために闘っていることを支援し、日本民族の平和と民主主義、アメリカの軍事基地撤去などの正当な要求を支持しております。私たちは、日本とベトナムの人民、日本とベトナムの宗教者の友好と団結がますます発展するよう祈っています。

中 濃 もう休憩する時間が過ぎてしまいましたが、どのようににいたしましたでしょうか。

ヒュー氏 こんな真剣な態度で話しあえるのですから、いくら話しても疲れませんし、話もつきないと思います。

私は、ベトナムの宗教者、人民がkachとっているいろいろな経験について話したいと思います。私たちは、いまやっていることが、個人のためにも、団体のためにも正しい道であるかどうか、いつも考えています。私たち宗教者や宗教団体の間でも、このことは非常に長い時間をかけて話しあっていることです。それが、仏の道にかない、国のためになるか、どの道が仏の道に背き、生活のためによくいかを話しあい、そして、宗教者は本当に人民を愛することが仏の道や宗教にかなうものである、という結論にたちました。仏の道、神の教えは、国を愛し、人間を愛することである、民衆、人民、国を愛することは、一国だけのことではなく、全世界的なことである、と考えます。何か民衆のためにならないことが出現すれば、私たち仏教徒は聞きます。仏教徒は、国のため世界人民のために闘わねばならない、このことを宗教者ははっきりと認識し、そこに立って活動してきたのです。それを通じて、私たちのやっていることの正しさを再認識できると思います。これが、私たちが経験した重要なことがらの一つです。

あなた方が、宗教研究を行ない、学びながら、社会的な問題と結びつけて、どんな勝利をしたか、どんな困難にぶつかったかを話してほしいと思います。

同じ信徒として手をたずさえて

内山 いまお聞きして、非常に迫力を感じました。今の日本では、目的が分散してどの目標に向っていったらよいか、はっきりしないところに問題のむずかしさがあると思います。もちろん、仏の道を生かすのは当然なんです。日本は、一九六〇年以来、高度成長といわれ、表面は繁栄を迎えているようにみえますけれども、一方では環境の破壊がすすんでいます。青年も壮年も、生きる目的が、この中で失われ、混乱しているのが日本の現状ではないか、と感じています。

石川 時間もあまりありませんので、ベトナム問題について一つの活動をのべたいと思いますが、私たち日蓮宗の青年は、全国的な組織をもっておりまして、私はこの組織の平和問題担当者として、ささやかではあります。が、ベトナム問題を考えよう、という啓蒙を行なってきました。この中で、私たちがまず考えたのは、第一に、ベトナム問題は私たちと無縁な問題ではなく、私たち自身の問題として考えねばならない、ということでした。ベトナムの民衆や仏教徒が殺されたり、寺院が破壊されたりしていることを、日本人として、同じ信徒として黙認してよいのか、黙っているだけではいけないのでは

ないか、まあこういった点から出発したわけです。自分個人のみをまず考える風潮の強い現在の日本の中にあつては、私もふくめてベトナムの苦しみを自分の苦しみにすることは、本当にむずかしいことだと思っています。でも日本から飛行機や軍艦が爆弾をつんでいっていることや前には日本もベトナムに軍をすすめた戦争責任を感じなければならぬことや、それから唯一の被爆国として、再びベトナムに広島・長崎を許してはならないし、東京空襲や戦地で戦死者を出してはならないなどの点を考えてみて、何とか「同苦」の心をもちえるようにしたい、という気持ちでした。そこで、昨年（一九七二年）六月に青森で全国の日蓮宗青年が集まる大会で、被爆者問題、信教の自由を守る問題とともにベトナム問題を話しあつたわけです。この中では、アメリカだけを非難するのはおかしいとかベトナム問題はまだよくつかめない、といった意見もありました。しかし、いったい、いつベトナムがアメリカを侵略したことがあるのか、とにかく一方的に北爆するのはおかしい、仏教徒が殺され、寺院が破壊されているのは許せない、という声が多数ありました。そこから、「インドシナの平和と正義のための宗教者世界集会」を支持し、代表を送ることが決められ、大会の宣言にうたわれたわけです。

まだまだ、ベトナムの実状について知らなかったり、

理解のうすい面もあります。これから、集会の決議をそれぞれ生かしながら、ベトナム仏教徒の教義や活動を私たちもよく知り、研究して知らせていきたいと思っています。これらのことは、私たちの信奉する日蓮聖人が、仏の教えにもとずき正義のために邪悪をはいし、平和を実現することが大切だ、と教えているからです。爆弾や侵略によつては国は亡びない、正しい教え、正義が亡びることによつて国が亡びる、といわれているからです。被爆者問題、公害の問題などを研究所でもとりくんでいます。この教えを実践しているベトナムの仏教徒の人々に学んで、よく知つて、その側に立つて、少しでも力をつくしたい、日本人がいまかかえている苦しみをなくしていく努力が、ベトナムの平和にもつながると思つています。

遠藤 はじめての機会なので、いろいろ聞きたいことがいっぱいあるのですが、時間のないのが残念です。私は南ベトナムにおける僧侶の焼身抗議からベトナム問題の重大さを感じたわけです。寺の中で、それから以後、檀信徒に対し、機会あるごとにアメリカがいかに人間を無残に殺しているか、を説明してきました。ベトナムの現実をみると、仏教徒、人民がかわいそうだ、と思つても正義がどちらにあるかを洞察しないのが、多くの仏教徒の現状ではないだろうか、と思つています。こんどの世界集

会にあたり、三〇〇通近くの坊さんや檀信徒に支持をよびかける手紙を出しました。その中には、共産主義の赤化を防止するのが宗教者の役目だ、という意見もありましたけれども、多くの人はこの集会への賛同と支援をしてくれました。それから、東京の渋谷で他の宗教の青年とともにベトナム問題を訴えました。集会で提起された行動のとりきめを、これからもつづけることを宗教青年は決めました。私は、とくにベトナムの子どもたちを守るためにつくしたいと思つています。というのは、私にも今年、愛する子どもが生まれたので……。

中濃 それでは、時間がきてしまいました。これから話が深まっていくのに残念ですが……。この話しあいのまとめを、私どもの研究所及び「立正平和の会」という組織の機関紙に掲載したいのですがご諒承願えますか。

ヒュー氏 もちろんけっこうです。充分話しあえませんできましたけれども、今日の話しあいで、私はあなた方が、宗教の研究を熱心に行っているだけでなく、私たちベトナム人民、仏教徒の闘いをじつさいにも支援し、行動されていることがわかりました。また「インドシナの平和と正義のための宗教者世界集会」に対しても、大きな支援をし、それをささえた人たちであることを知りました。ありがとうございます。

中濃 本日はどうもありがとうございます。